

第1学年	算数科						
単元名	10よりおおきいかず						
単元の目標	40までの数について、個数の数え方や数の読み方、書き方、数の構成などを理解し、10をひとまとまりにして数の数え方などを考える力及び数の構成に着目して数の計算の仕方を考える力を養うとともに、数で表すことのよさを感じ、日常生活に活用しようとする態度を養う。						
着眼点	10をひとまとまりにして、「10のまとまりと10に満たない端数がいくつ」という数の構成を基にして数をとらえる。（十進位取り記数法の素地づくり）						
小単元	10よりおおきいかず				かずとしき		20よりおおきいかず
	1(短縮)	2	3	4・5	6	7	8
学習形態	一斉	一斉	一斉	一斉	一斉	一斉	一斉
めあて	20までの数の数え方、読み方、書き方を理解する。	20までの数の数え方の理解を深める。	20までの数の構成を理解する。	数直線を知り、数直線で数が表せることや、20までの数について大小や系列を理解する。	20までの数の構成を和や差でとらえ、10と1位数の加法とその逆の減法をすることができると。	20までの数の構成を和や差でとらえ、12+3、15-3などの計算ができる。	40までの数の数え方、読み方、書き方を理解する。
本時の流れ	- 学習への興味・関心を高め、学習の見通しをもつ。 10より大きい数の数え方を考える。 - 飴や卵などの数を数え、読み方や書き方を考える。 - ブロックで数を表した図を見て、20までの数を読みだり書いたりする。 11から20までの数の読み方や書き方について振り返り、まとめる。	- 写真を見て、10といくつになっている卵の数を数える。 - トマトなどの写真を見て、工夫して数える。 - 絵を見て、20までの数の順序数について考える。	- 隠れている数を考え、答える。 2人1組をつくり、1人が数カードとブロックで問題を出し、もう1人が十の位や一の位の隠された算数ブロックの数をあてる。 - 練習問題に取り組み、20までの数の構成についての理解を深める。	- 図を見て、それぞれの進んだ距離と位置を調べ、数直線上の数で表す。 - すぐろくと数直線の共通点、相違点を考え、数直線の特徴や性質を確認する。 - 数直線を手掛かりにして、20までの数の大小や数の系列を考える。 - 数直線を見ながら、基準の数と大小、方向などを考える。 2とびや5とびで唱えたり、大きい数から小さい数の順に唱えたりする。 - 数直線を見て考えたことを振り返り、数直線のよさについてまとめる。	- 数の構成(10といくつ)に基づいて、たし算の式に表す。 - 数の構成(10といくつ)に基づいて、ひき算の式に表す。 - 数の構成を基に、10と1位数の加法とその逆の減法の計算の仕方を考える。	- 数の構成に着目して、12+3の計算の仕方を考える。 - 数の構成に着目して、15-3の計算の仕方を考える。	- 写真を見て、卵と数え棒を数える。 20より大きい数について、10より大きい数の数え方を基にどう数えればいいのか考える。 - 写真を見て、色紙とペンの数を数える。 30より大きい数について、20を10が2こと表したことを基にどう数えればいいのか考える。 40までの数について、数え棒の数を数える。 10のまとまりがいくつとばらがいくつという考えで数を表すことをまとめる。
学習のふりかえり	学習のふりかえり(まとめ)	学習のふりかえり(まとめ)	学習のふりかえり(まとめ)	学習のふりかえり	学習のふりかえり(まとめ)	学習のふりかえり(まとめ)	単元のふりかえり(まとめ)
手立て・支援のポイント	- 数え間違いを防ぐ方法として、算数ブロックを用いた1対1対応による操作で数える活動を行う。 - 様々な数え方を対比することで、10のまとまりをつくって数える方法のよさを実感できるようにする。 - 図を見て、ブロックを操作することで「10といくつ」で数をとらえる。	- 卵パックは1パックが10のまとまりになっているので、数えやすいことに気付かせる。 5とびや2とびで数えさせ、5とびや2とびでも10のまとまりをつくって、10といくつで数えることよいことに気付かせる。	- 隠れている数がなぜそう考えられるのかを問い、数の構成を算数ブロックで確かめる。 - 答えられない場合には、隠れているブロックを見せて、「13」の「1」や「3」が何を表しているかを考えさせる。	- 数直線を「かずのせん」と呼ぶことを知らせ、数直線を用いて説明させる。 - 答えが出せたら、数直線を使って、基準の数から右に進んだり左に進んだりして全体の答えを確かめさせる。 - 様々な方法で数を唱える際、5とびの唱え方は時計の読みにも必要になってくるので、十分慣れさせる。 - 数直線を用いると、その位置で数の大小や系列を把握できることに気付かせる。	- 言葉から図や算数ブロックによる操作を引き出し、15の構成を和でとらえさせて、式表現を考えさせる。 - 数を位ごとに分ける図を根拠として考えさせ、「10といくつ」の見方で計算させる。	- 式の意味を確認し、算数ブロックを用いて数を表し、ばらのブロックの方を操作して答えを求めることに気付かせる。 - ブロック操作と言葉、図を関連させて説明させ、式と答えに結び付ける。	20までの数について、「10といくつ」と表したことを基に、「20といくつ」で表せばよいことに気付かせる。 20を「10が2こ」と表したことを基に、30の読み方や書き方に気付かせる。 10のまとまりがいくつとばらがいくつという考えで数を表すことをまとめる。
評価・見取りの場面	【主】20までの数について、「10のまとまりと端数がいくつ」とみて、数え方を工夫して考えようとしている。（観察・ノート） 【知・技】20までの数の数え方、読み方、書き方などを理解し、数を読みだり書いたりすることができる。（観察・ノート） 【思】20までの数について、「10のまとまりといくつ」という構成になっていることをとらえ、ブロックと数字で説明している。（観察・ノート）	【思】数のまとまりに着目して、20までの数え方を工夫している。（観察・ノート） 【知・技】20までのものの数や順序について、正しく数えることができる。（観察・ノート）	【思】20までの数の構成に着目して、10といくつの和としてとらえ、説明している。（観察・ノート） 【知・技】20までの数の構成を理解し、20までの数を10といくつの和としてとらえ、分解をすることができる。（観察・ノート）	【思】数直線の特徴や性質をとらえ、説明している。（観察・ノート） 【知・技】数直線の特徴や性質(0が基点、等間隔の目盛り、左から右に順に大きくなるなど)を理解し、数直線を用いて数の大小を比較することができる。（観察・ノート） 【知・技】数直線を用いて、数の系列を理解している。（観察・ノート） 【思】数直線を活用した数の唱え方を考え、説明している。（観察・ノート）	【知・技】20までの数の構成を、加減計算の式に表せることを理解し、式に表すことができる。（観察・ノート） 【思】数の構成に着目して、10と1位数の加法やその逆の減法の計算の仕方を考え、説明している。（観察・ノート）	【思】数の構成に着目して、12+3、15-3などの計算の仕方を考え、操作や言葉などを用いて説明している。（観察・ノート） 【知・技】12+3、15-3などの計算の仕方を理解し、計算ができる。（観察・ノート）	【知・技】40までの数について数え方や読み方、書き方などを理解し、数えたり読んだり、書いたりすることができる。 【主】数の構成を活用して、40までの数を数えたり書き表したりした過程を振り返り、そのよさを感じ、生活に生かそうとしている。（観察・ノート）